

あ と が き

(社)日本環境衛生施設工業会の海外環境事情調査団の派遣も10回目を数えるにいたりましたが、今回はこれまでと少し趣向を変え、北欧とロシアを訪問しようということになりました。「この寒い時期に本当に北欧に行くの？」などという弱気の発言もあったのですが、訪問先のアポイントも着実に取れていき何とか実現することができました。幸い日頃のメンバーの心掛けが良いせいも、全旅程を通じて天候に恵まれ予想したより随分暖かな毎日でした。

デンマーク、スウェーデンでは、本調査団の主な目的の一つであるバイオマス利用状況調査に、大いに興味をもって臨んだのですが、この地域特有の熱利用システムがうまく活用されていることが分かりました。すなわち寒い地域だけに地域熱供給システムが整備されており、これを利用してバイオマスを燃料とした熱電併給(コジェネレーション)を行うのです。既存インフラを活用することとコジェネにすることで高い経済性と熱効率が得られるわけです。ガイドさんの趣味(?)のお陰で火葬場の熱利用システムまで視察することができたというおまけつきでした。

ロシアの西の玄関口であるサンクトペテルブルグを初めて訪問する機会を得ました。しかもヘルシンキから約6時間の列車の旅を楽しむこともできました。想像以上に大都会だなという第一印象でしたが、何となく常に監視されているような居心地の悪さを感じ続けていた気がします。郊外にある廃棄物処理施設も「先進的な実験ごみ処理施設」といううたい文句でしたが、実体はコンポスト設備が中心の年代モノの施設でした。プレゼンルームもなく、荷物片手にたたされ坊主で説明を聞くということになり、唯一寒さが身にしみた時間でした。

出発時の結団式に二人がはぐれるという小トラブルはあったものの、視察本番ではほとんど問題なく全旅程をこなすことができました。三野団長の下、団員一同が和気藹々とトナカイの肉を食べたり、ウォッカを飲んだりといかにも北の国らしい食文化を経験する一方で、休日には美術館やオペラを楽しむこともでき充実した日々でした。まさに異文化を楽しむことができたというのが実感です。同じ釜の飯を食った仲間でもまた集まろうとっています。普段の仕事を通じた関係だけでなく、こうした機会を通じて社外の方との交流が広がることは本当に貴重な財産です。皆で大いに活用していきましょう。

最後になりましたが、JTBの山田さんにはいろんな注文を快く受けてもらい大変御世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

社団法人 日本環境衛生施設工業会
第10回 海外環境事情調査団 副団長
技術委員会 副委員長 長田 守弘